

上田市における学校図書館と公共図書館の 協力関係について

Relationship between school library and public library — A case study of Ueda city in Nagano —

山 田 美 幸

Miyuki Yamada

要 旨

現在、日本の学校図書館は司書教諭の配置が目前に迫り、総合的学習・調べ学習の実践の場として、教育的重要な空間と注目されるようになった。一方、平成14年8月に、政府が発表した「子供の読書活動の推進に関する基本計画」の中には、学校図書館の地域開放、学校と公共図書館との連携が大きく取り上げられている。

本研究では、長野県上田市で実践されている学校図書館及び公共図書館との協力関係の具体的事例を通じて、学校図書館及び公共図書館との協力関係について重要となる側面を考察してゆく。

キーワード：学校図書館・公共図書館・協力・ネットワーク

1. はじめに

現在、日本の学校図書館は、司書教諭の配置が目前に迫り、総合的学習・調べ学習を实践するための教育的に重要な空間とみなされるようになった。その一方、平成14年8月には、政府が、児童生徒の読書離れ対策の一環として、「子供の読書活動の推進に関する基本計画」を発表した。その基本計画の中に、学校図書館の地域開放、および、学校と公共図書館との連携など学校図書館が大きくとりあげられている。

上田・小県地域においては、平成7年から公共図書館ネットワークが形成され、運用されている。さらに、平成10年からは、そこへ新たに地域内にある、学校図書館、大学図書館、公民館図書室が参加して、多館種図書館ネットワークを形成している。

そこで、本研究では、上田・小県地域における具体的事例を通じて、学校図書館及び公共図書館との協力関係について重要となる側面を考察してゆく。

2. 上田・小県地域における図書館事情について

上田地域は、上田市を中心に、丸子町、東部町、坂城町からなる広域行政圏とされている。地域住民の日常生活圏も上田市を核として形成され、古くから社会的、経済的、歴史的にも互いの影響が大きい地域となっている。また、上田地域周辺には、西部に青木村、北東部に真田町、南部に長門町、武石村、和田村が隣接しており、上田地域と併せて、上田・小県地域と呼ばれると同時に、行政運営の一環として平成10年4月からは上田地域広域連合を形成している。なお、上田地域広域連合内の人口は約22.2万人である。

生涯学習が注目されるようになり、人々の生活圏がますます拡大するようになった平成6年ごろから、上田地域内の公共図書館界では、生活実態に伴った図書館サービスの提供や図書館業務のコンピュータ化に関する動向が活発になってきた。そして、上田市を中心として1年3ヶ月の検討・準備期間を経た結果、公共図書館のネットワークが形成され、平成7年12月1日から、広域的な図書館サービスの提供が開始された。このネットワークは、正式名称を上田地域公共図書館情報ネットワーク（通称エコール、以下「エコール」と略する）と呼び、以下のことをねらいとされた。

- ① “いつでも・どこでも・誰にでも”をモットーとした、日常生活圏内における公共図書館利用の実現
- ② 総合目録の構築（書誌情報の共有化）及び相互協力
- ③ 専門書、郷土資料、映像資料等の分担共同収集・保存
- ④ 電算化設備の共有化による図書館業務電算化の促進及び費用負担の軽減
- ⑤ 館種を越えた将来的なネットワーク構想の核づくり

平成7年12月のエコール形成当初、サービス拠点の上田市立図書館、丸子町金子図書館、東部町図書館、坂城町図書館の4公共図書館のみであった。その後、平成13年度までに、真田町、青木村、長門町各自治体内に設置された真田町図書館、青木村図書館、長門町図書館が開館と同時にエコールへ参加するようになり、将来的には、武石村、和田村の参加も予定されている。また、平成10年度からは、文部省（現文部科学省）委嘱事業の社会教育施設情報化・活性化推進事業により、長野大学附属図書館、上田市塩田公民館などがサービス拠点としてエコールへ参加するようになり、館種を越えた地域的図書館ネットワークが形成されるようになった。

平成13年度におけるエコール管内公共図書館の現状は表1のとおりである。

表1 平成13年度エコール管内公共図書館の現状

	上田市	丸子町	東部町	坂城町	真田町	青木村	長門町
人 口	125578	25479	25608	16901	11459	4952	5215
蔵 書 数	379776	61212	82531	83398	13885	11600	2992
貸 出 数	446857	68524	141920	83111	13761	7088	6517
利用登録者数	40772	6110	7605	5454	2174	861	612

現在、上田・小県地域内における図書館業務は、広域連合の業務の一環として位置づけられており、広域計画も定められている。

3. エコールと学校図書館ネットワーク構築への動き

3. 1 上田地域社会教育施設（図書館等）情報化・活性化推進事業について

平成9年度から、文部省（現文部科学省）委託事業である「社会教育施設情報化・活性化推進事業」により、上田・小県地域では、上田地域社会教育施設（図書館等）情報化・活性化推進事業（以下、「上田地域社会教育施設事業」と略）が3カ年計画で行われるようになった。上田地域教育施設事業は、社会教育施設の情報化や施設相互の連携強化を推進する先進的・モデル的な事業を実施することで、社会教育施設の情報化・活性化の推進及び学習支援サービスの一層の充実を図ることを目的としたものであり、エコールを主体として実施された。

上田地域社会教育施設事業の、具体的な事業内容としては、次の4点に集約させることができる。

- ① 既存のエコールを核とした、エコール管内の小・中学校図書館、公民館、大学図書館への図書館ネットワークの拡充
- ② 貴重・郷土資料の電子・データベース化による資料保存態勢の充実
- ③ インターネットを通じた、書誌情報を含む情報提供
- ④ その他、関係施設・設備の整備

上記の事業内容を通じて、上田地域社会教育施設事業では、初等・中等教育機関における「調べ学習」環境の整備、青少年の読書環境づくりの推進、公民館・大学図書館の活性化、地域におけるレファレンス体制の充実を図っている。さらに、地域住民の、社会教育施設をベースとした生涯学習活動の推進をねらいとする部分もあった。

一方、平成9年6月に学校図書館法が改正され、平成15年3月までに、一部を除き、学校図書館に司書教諭を配置することが義務化された。さらには、文部省が当時提唱していた「総合的学習」「調べ学習」実践の場として、教育界全体が学校図書館に注目するなど、学校図書館にとっては、平成9年は大きな転換期となった。上田地域社会教育施設事業が事実上本格的に実施されはじめたのが、平成9年12月であったことを考慮すると、公共図書館ネットワークと学校図書館との連携体制を図るという視点は、かなり時宜にかなったものであったと推測され

る。

3. 2 上田地域社会教育施設事業における学校図書館関連の動き

上田地域教育施設事業の中で、エコールがネットワーク構築に関して最も重要視したのは、エコール管内の小中学校図書館であった。事業開始年度である平成9年度から、エコールに接続するためのネットワーク設備を重点的に整備し始め、翌平成10年6月からネットワーク接続および運用が開始した。上田地域教育施設事業において、学校図書館が関係した具体的事業は、以下のとおりである。

平成9年度：

① エコール接続ネットワーク設備整備

ア. モデル参加校の選定

イ. 施設整備事業（モデル校校内配線整備，検索用端末及び事務用端末の整備）

② ネットワーク接続システムの検討及び操作研修

ア. システム検討

イ. システム・機械の操作運用研修，及び，システムの修正

平成11年度：

① モデル参加小・中学校とのネットワーク接続システムの操作研修，及び，システムの再検討

ア. 小中学校向け機器操作・運用研修

イ. モデル参加小・中学校利用者（児童・生徒，先生）アンケートの実施

② インターネットでの情報提供

3. 3 ネットワーク参加校の拡大

上田地域社会教育施設事業開始当初，ネットワーク参加小中学校は，上田市が計7校（小学校5校，中学校2校），丸子町，東部町，坂城町が計2校ずつ（丸子町・東部町は小学校1校，中学校1校，坂城町は小学校2校），の合計13校が指定された。各ネットワーク参加校には，エコール管内公共図書館の蔵書データベースを検索する検索専用端末（タッチパネル式，以下「ウィンドウズ・ロボ」と称す。），及び，学校司書が公共図書館に発注を行う事務端末のセット（各1台，計2台）が，各1セットずつが設置された。

その後，上田地域社会教育事業終了後は，上田市では，学校教育課が実施した事業「学校図書館情報化・活性化推進事業」により，インターネットへの接続可能なコンピュータ及び学校図書館内蔵書の書誌情報をデータベース化できる事務用端末のセットを，8校（小学校6校，中学校2校）に設置した。その結果，上田市内におけるモデル参加校は15校（小学校11校，中学校4校）へと拡大した。

なお，上田市以外のエコール管内におけるネットワーク参加校は，東部町が2校から5校（小学校4校，中学校1校）へと増加し，丸子町，坂城町は事業開始時期の実数を保った形で

ある。なお、平成14年10月現在、真田町、青木村、長門町内の小中学校図書館はエコール接続へのネットワークには参加していない。

4. 学校図書館ネットワークのシステム及びサービス内容

貸出から返却までの流れは、以下の通りである。なお、一連の流れの説明は上田市内小中学校を前提としている。

- ① 利用者が、学内端末で蔵書を検索する。希望する資料が見つかり所蔵が確認できたら、予約申込書に記入する。
- ② 利用者が記入した予約申込書を学校司書が受け取り、事務用端末でエコール管内公共図書館（上田市は上田市立図書館）へ予約回送の依頼を行う。
- ③ 上田市立図書館において、請求があった資料の予約回送の手配を行う。もし、上田市立図書館に所蔵がない場合は、資料を所蔵するエコール管内図書館へ予約回送を行い、上田市立図書館が資料を受け取る。
- ④ 学校図書館への貸出処理はすべて上田市立図書館で行う。そして、各学校へ回送される。
- ⑤ 回送されてきた資料は、学校図書館（学内）において資料を希望した利用者へ渡される。
- ⑥ 返却も上田市立図書館へ行う。

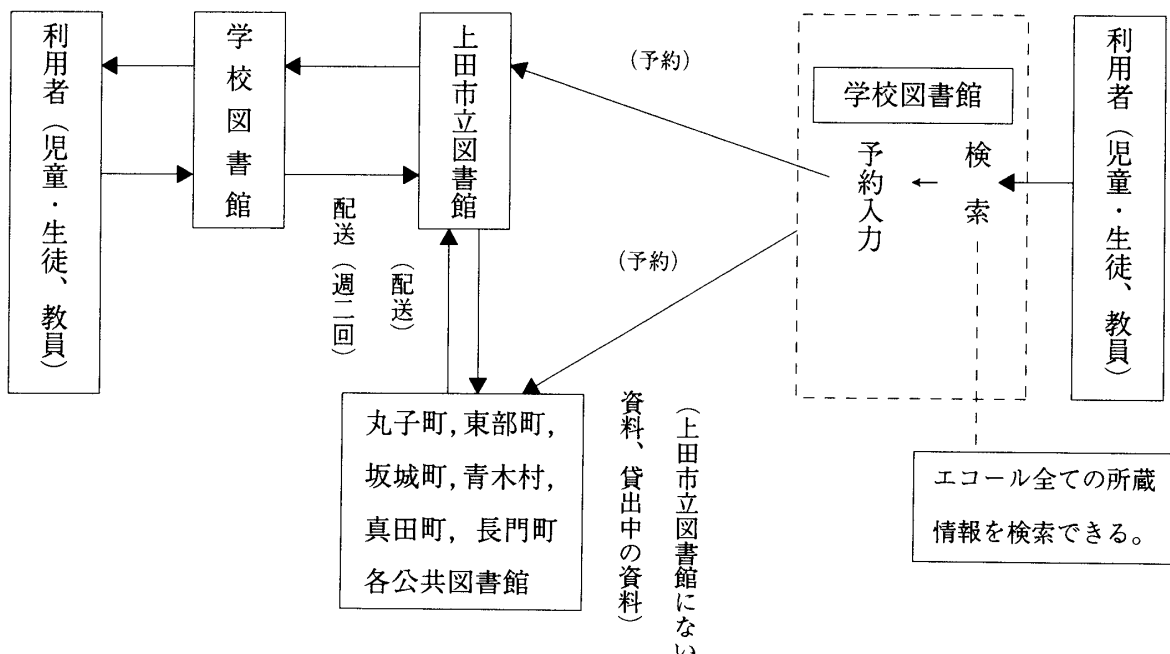


図1 小・中学校図書館との学校図書館ネットワークの流れ*

貸出の利用単位は、学校（学校図書館）、学年、学級の3レベルで行う。個人での利用希望があっても、学校図書館が児童・生徒に代わって資料を借りる形式となる。公共図書館側では、どの児童・生徒が資料を借りたかが分からない仕組みになっている。学校内におけるエ

コールの所蔵検索は、学校図書館もしくは学校内に設置されている、データベース検索専用端末（通称ウィンドウズ・ロボ）もしくはインターネット上のエコールホームページを通じて行う。学校図書館側から公共図書館への予約回送依頼は、公共図書館の休館日でも入力できるようになっている。

貸出処理については、各学校への配送前に、同一自治体内の公共図書館で行われる。返却処理も同様になされる。仮にエコールを経由して貸借する資料が、他自治体公共図書館の資料であっても、一旦上田市立図書館を経由する。貸出期限は貸出処理を行った日から原則3週間となっている。各学校への配送後、資料の管理は各学校、学校図書館に任せられている。

学校への回送は、上田市は上田市立図書館職員または委託職員、上田市以外の自治体は、各学校の教員の協力によってなされる。

貸出可能な期間は、5月から翌年2月までで、年度始・末である4月、翌年3月は行わない。基本的には、学校図書館単館と公共図書館単館とのやり取りで、学校図書館が既存の公共図書館ネットワークへ参加する形態となっている。学校図書館同士がネットワークを構築しているわけではない。

なお、学校図書館ネットワークのサービスとしては、資料貸借のほかに、ブックリストの作成、ガイダンス、お話し会、レファレンス・サービスなどが行われている。

5. 上田市内学校図書館の現状

上田市内学校における学校図書館の現状は、表2に示す。

平成5年度から実施された学校図書館図書整備新5ヵ年計画の地方交付税分配措置や、その後の措置として単年度で様々な財源分配、さらには学校図書館を含めた図書館事業が実施され、後の学校図書館図書整備費としてなどに影響を及ぼすこととなった。その結果、平成14年8月現在、上田市内小中学校における学校図書館の現状は表2のようになっている。

総合的学習を実践するに当たっては、児童及び生徒の幅広い興味関心に基づいて課題を設定し、学習活動を行う。そのために、学校図書館のコレクションは、その情報要求を満たすために、多種多様な範囲のメディアを揃えておくことが求められる。

全国学校図書館協議会が提唱する「学校図書館メディア基準」によると、図書の蔵書最低冊数が、12学級の小学校では12万冊、15学級の中学校では約3万冊とされている。冊数だけでは、かなり多いように考えられる。しかし、表2を見る限り、実際に単館の学校図書館を用いて総合的学習を展開する上で、十分な環境にあるとはいいがたい。

学校図書館の運営には、人手がかかる。上田市では、嘱託職員であるが、「学校図書館事務職員」を採用し、各学校に1名ずつ配置している。

表2 上田市内学校図書館の現状*2

	学級数	児童・生徒数	蔵書冊数	年間購入冊数	一人当たり蔵書冊数	一人当たり購入冊数	年間貸出冊数	一人当たり貸出冊数	エコー接続状況
A 小	11	256	8199	356	32.0	1.4	12564	43	PC+端末
B 小	6	153	11596	324	75.8	2.1	16630	71	ウィンドウズ・ロボ+端末
C 小	20	565	12140	992	21.5	1.8	26276	45	PC+端末
D 小	8	218	11232	94	51.5	0.4	10200	46	
E 小	17	500	13535	532	27.1	1.1	39229	79	ウィンドウズ・ロボ+端末
F 小	19	603	12485	688	20.7	1.1	41812	67	ウィンドウズ・ロボ+端末
G 小	19	576	10817	534	18.8	0.9	29054	50	PC+端末
H 小	14	352	8177	514	23.2	1.5	28515	84	PC+端末
I 小	13	354	9582	421	27.1	1.2	29210	81	
J 小	14	309	7227	265	23.4	0.9	28208	83	PC+端末
K 小	23	727	11554	918	15.9	1.3	54343	70	ウィンドウズ・ロボ+端末
L 小	13	315	6872	389	21.8	1.2	-	-	PC+端末
M 小	23	674	13894	667	20.6	1.0	35765	54	ウィンドウズ・ロボ+端末
N 小	20	591	13153	670	22.3	1.1	38122	65	
O 小	19	604	10743	645	17.8	1.1	38923	65	
P 小	15	441	8898	495	20.2	1.1	34763	77	ウィンドウズ・ロボ+端末
A 中	21	629	14690	665	23.4	1.1	6166	10	ウィンドウズ・ロボ+端末
B 中	15	495	9668	491	19.5	1.0	3978	8	PC+端末
C 中	19	622	12266	596	19.7	1.0	6100	10	PC+端末
D 中	21	687	17901	771	26.1	1.1	4696	6	ウィンドウズ・ロボ+端末
E 中	10	302	9176	485	30.4	1.6	3483	10	
F 中	17	557	11138	389	20.0	0.7	7697	13	
G 中	17	529	9853	528	18.6	1.0	4564	8	
小・中合計	330	9671	224629	11027	23.2	1.1			

6. 学校図書館ネットワーク利用状況と効果・課題

平成13年度における学校図書館ネットワーク利用状況は、表3に示す。

小学校の場合、最も利用が多い月は6月で、その次が10月となっている。この2月をピークとして、夏休みである8月が若干落ち込む形で数値が変化している。このことは、通常学期が開始され、学級経営及び授業運営が安定したところに生徒たちがネットワークを利用して資料を利用していることがわかる。

中学校の場合、4校分の月別合計にはあまり変化が見られない。しかし、学校間での合計数にはかなり幅が出ており、約6倍の格差が見られる。

なお、小学校、中学校共に、貸出冊数が多い学校には、検索専用端末であるウィンドウズ・

ロボが導入されている。これは、ネットワーク参加年数が他校に比べて長く、児童・生徒・教員にとってエコール管内と学校図書館との協力関係がかなり浸透している点、また、児童・生徒にとって、ウィンドウズ・ロボが検索専用端末として機能していることが、利用に際して心理的満足感を得ているためではないかと推測される。

表3 平成13年度学校図書館ネットワーク利用状況（貸出冊数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成 14年 1月	2月	3月	合計
A 小	0	0	1	26	0	12	16	15	5	14	0	0	89
B 小	0	157	332	266	154	234	316	246	190	169	66	0	2130
C 小	6	150	156	155	15	120	74	88	81	75	46	0	966
D 小	0	118	76	47	15	38	97	62	91	36	31	0	611
E 小	0	0	147	219	151	143	166	133	118	80	211	1	1369
F 小	1	59	104	55	17	37	84	30	123	46	14	0	570
G 小	1	0	0	0	0	0	2	8	5	0	3	0	19
H 小	0	47	51	56	13	44	76	41	19	25	14	0	386
I 小	0	16	179	75	77	57	110	108	7	7	21	0	657
J 小	0	13	21	37	17	38	66	99	70	63	55	0	479
K 小	12	224	172	157	127	108	175	179	103	46	22	0	1325
L 小	1	64	117	76	56	71	102	109	81	92	45	0	814
M 小	0	103	185	129	61	215	239	247	86	200	90	0	1555
A 中	0	82	102	94	28	84	84	75	92	110	56	0	807
B 中	0	9	28	5	85	8	15	21	52	16	4	0	243
C 中	12	15	16	24	7	7	6	5	35	6	3	0	136
D 中	0	35	79	96	64	82	55	76	57	75	8	0	627
小学校計	21	951	1541	1298	703	1117	1523	1365	979	853	618	1	10970
中学校計	12	141	225	219	184	181	160	177	236	207	71	0	1813
合計	33	1092	1766	1517	887	1298	1683	1542	1215	1060	689	1	12783

7. まとめ

上田市における学校図書館及び公共図書館との協力関係での事例では、公共図書館とのリソース・シェアリング、及び、情報ネットワークの形成、物流システムの形成を通じて、学校図書館との公共図書館との連携が取れていることが確認された。しかし、本事例では、物的資源以外の交流、つまり、人的資源の交流は確認が取れなかった。人的資源が生きて始めて公共図書館と学校図書館の協力体制が有機的に機能する以上、今後の成否については、人的資源の交流がかぎとなる部分がある。現在、上田市教育委員会によると、各学校司書同士が連携を取り、業務マニュアル作成の動きが見られる。

また、ネットワーク参加校以外にも、ネットワークへの参加を開いていく必要があると思わ

れる。本事例においては、公共図書館と学校図書館間での回送が実施されている参加校を中心に検討を行った。しかし、上田市立図書館司書荒井氏によると、学校図書館側から出向いて公共図書館のコレクションを借出す団体貸出の動向が近年著しいという。ネットワーク参加校以外の学校においても、公共図書館コレクションへの潜在的ニーズが存在していることが考えられる。

【謝辞】

本論文作成に際し、上田市内学校図書館関連統計の使用についてご協力賜った上田市教育委員会学校教育課の佐藤文昭氏、上田市立図書館館長宮下明彦氏、同図書館井沢順子氏、同図書館荒井美栄子氏に深く謝意をささげます。

【注】

1. 「教育うえだ 平成9年12月16日号」掲載の図「小・中学校図書館とのネットワーク」に筆者が加筆・修正を行ったもの。
2. 平成14年8月現在。但し、「年間貸出冊数」及び「一人当たり貸出冊数」については、平成13年度の数値である。

【参考資料】

- ・日本図書館協会図書館調査委員会編 「日本の図書館：統計と名簿 2001年版」 日本図書館協会 2001年12月
- ・日本図書館協会図書館年鑑編集委員会編 「図書館年鑑 2001」 日本図書館協会 2001年6月
- ・上田小県地域広域統計情報ホームページ（上田地域広域連合ホームページ内） <http://www2.umic.ueda.nagano.jp/tokei/index.asp> 参照日：2002年8月31日
- ・上田市小中学校職員労働組合 「だいすき図書館：'94上田市小中学校図書館白書」 上田市小中学校職員労働組合 1994年10月
- ・上田地域社会教育施設（図書館等）情報化・活性化推進実行委員会 「上田地域社会教育施設（図書館等）情報化・活性化推進事業報告」 上田地域社会教育施設（図書館等）情報化・活性化推進実行委員会 2000年3月
- ・「教育うえだ 平成9年12月16日号」 No159